さいたま市民レポート for Sustainable City

saitama shimin report
No.50

発 行 日　2010年2月3日
編集責任　さいたま市議会議員　土井裕之

tel　048-886-2858
fax　048-873-3446
E-mail　doi@doih.net
HP　http://doih.net

FROM EDITOR

「経済は心理的な要素の影響を受ける。中でも政治家の発信は大きい」ある人の言葉です。決して景気対策のような直接的なものだけを指すのではありません。ある不動産会社支部長によれば「『普天間基地の移設決定』という一見不動産と関係ないニュースが出ると、住宅販売数や契約数が伸びるものだ」とのこと。前向きな発信は人間の気持ちを動かし、経済にも影響を与えるようです。

BEFORE

25日　駅立ち／市民相談
26日　大谷口・太田窪区画整理調査／日経グローカル「地方議会」
27日　京都府視察
28日　京都市視察／市民生活委打ち合わせなど
31日　防災リーダー研修会／危機管理士講座／財政自主研

AFTER

2月1日　財政自主研
3日　議会運営委／【会派】事業仕分け研修
4日　公会計研修／【会派】会議
5日　【会派】予算委打ち合わせ／公会計研修

2月議会は2月9日から3月19日までの予定です。

編集責任　さいたま市議会議員
土井裕之

profile: 1971年，旧浦和生まれ。川口北高校卒業。1999年より浦和市議を2年勤め、3市合併の際，辞職。2003年・2007年さいたま市議に当選。 2008年、明治大学公共政策大学院卒業。無所属で活動中。

所属会派　民主党・無所属の会さいたま市議団
所属委員会　市民生活常任委員会（委員長）
議会運営委員会（理事）
決算特別委員会
見沼田圃将来ビジョン特別委員会
予算委員会（2月定例会のみ）

大幅な減収と膨大な国債 減収時代対応の予算に

自治体議員による財政自主研究会で、1月下旬に示された総務省「留意事項等」について、自治総研の菅原敏夫氏から解説を受けた。この時期の国の意向を参考にして、各自治体の予算が組まれることとなる。自民党時代と違うものが出てくると思いきや、子ども手当や高校無償化などマニフェスト政策以外は、ほぼ例年通り。①コンクリートから人へ、②新しい公共、③未来への責任、④地域主権、⑤経済成長と財政規律の両立を予算編成の基本理念とする。地方財政は82兆1200億円で前年比0.5%減。背景に景気低迷。GDPは25兆円減。財源不足は過去最大で、穴埋めの国債は総額約1000兆円。地方交付税は1.1兆円増額で、財政の厳しい自治体ほど恩恵を被る。市町村合併は一区切り。自治体数は3232（平成11年）→1730（現在）。第3セクターや地方公営企業会計制度を見直し財政健全化をはかる。2月予算議会では、全国の自治体議会が、以上のような特徴の予算案を審議することとなる。本格的な減収時代に入った。

10年後の介護社会は？ まず現場に耳を傾ける

90代の母親は、物事の認識はできるが、自力で体を動かせず、言葉も出ない。ベットに寝たきりで体は硬直。「施設には行きたくない」「『来れたら来る』と言うなら来ないほうがいい」と、母を介護する女性（実娘）に向かって無理難題な言葉や態度を繰り返してきた。心に傷を受けた女性は兄弟に助けを求めるが、「施設に入れたらどうか」と他人事の返事。頼れるのは自分だけ。午前は母の家で過ごし、ヘルパーが来る午後の数時間に自宅に戻り家事。夜は母の家に泊まり、早朝、自宅に戻って家事。夫の出勤と一緒に家を出てまた母の家へ。別居状態の毎日で大変だが、母親のためにも、これからも続けていくという。

これは、母親を介護する女性から、最近聞いた話。在宅介護がいかに大変か伝わってくる。介護保険はこうした家族の負担を減らすことが目的だったはずだが…。10年後。人口の多い団塊の世代が介護の対象になったら…。質どころか、量の充足すら危うい深刻な事態は免れない。埼玉は急激な高齢化地域と予想されている。「自分の住み慣れた家で最期を迎えたい」と考える人がほとんどだろう。政権が変わった今、介護環境、というよりも、人間の終の時期の過ごし方において、何が必要か、ここで今一度、私たちも問い直す時が来ている。

京都視察報告（1/27-28）

■文化財防災（京都市）

歴史的文化遺産の防災対策。各寺社仏閣に消火栓設置など指導。国のモデル事業で清水寺周辺対策。火事対策の水源確保で公園地下に貯留漕設置。初期消化は住民が担う。

■観光戦略（京都市）

観光資源の数も戦略や調査も徹底している。「観光客を10年間で1000万人増の5000万人に」という平成12年の目標は2年前倒しで実現。策定中の新計画では量から質へ転換。弱点の夏・冬は、七夕や夜の散策イベントで対応。訪問率低い若者・子ども向けの仕掛けも行なわれる。